

# 北小ものがたり

竜王北小学校  
研究通信 &  
学校だより



令和2年7月29日

## 1学期、いろいろありましたが終業を迎えます

5月24日の入学式、その翌日の始業式から始まった、異例の1学期でしたが、なんとか無事終了しそうです。その間、保護者の皆様には、多大なご心配やご協力をいただく中で、この日を迎えることができたのだと、改めて感謝しております。

学校でも、『新しい生活様式』の徹底を含めた、いろいろな対策を全職員で取り組んでまいりました。体調不良の子をいち早く見つけるための『玄関での健康カードチェック』と『教室での健康観察』、児童が帰った後の『清掃と消毒作業』については、特にたくさんの時間をかけて行ってきたつもりです。東京を中心に感染者が増加傾向であり、近隣でも陽性者発生情報が継続されている中、ギリギリのところまで踏ん張っているという状態であることは間違いのないと思います。夏休み中も、緊張感を保ちながら、対策を実行し続けたいと思います。

## 通信表『あゆみ』が改訂されます

子供たちにとっては、長期休業前の大きな関門となっているかもしれませんが、新しい形式となった『あゆみ』が渡されます。私も、全校児童の記述を拝見させていただきました。それぞれの目標に向かって歩みを進めている様子が伝わってくるものがほとんどで、コロナ禍にあっても健気に頑張ったのだと思うと、うれしくなりました。『こうするともっと良くなる…』というような課題も示されている子もいました。その克服に向けて努力してくれることを期待したいと思います。

さて、今年度から『歩み』の様式を変更いたしました。それは、小学校の教育内容の基準となる『小学校学習指導要領』が全面実施となり、その中で、新しい時代を生きていく子供たちに必要な資質・能力として三つの観点が決められたことに由来しています。その三つの観点とは、

『知識及び技能』

『思考力、判断力、表現力等』

『主体的に学習に取り組む態度』

です。これらの観点は全く新しいものではありませんが、これまでは『知識・理解』に重きが置かれてきた傾向があったことは否めません。新しい学習指導要領では、これまでの生活体験や知識・技能を使って、自ら考え、判断し、その考えを他者と交流しながら学びを深めていくということが重要となります。言わば、子供たちが実社会に出たとき、生きてはたらく力を育成していくことが大きなねらいとなりました。

そこで、これまでは『単元別（学習内容の項目別）』で評価してきましたが、今年からは『観点別』の評価とすることで、教える側も三つの観点を意識した指導をして評価につなげていくことといたしました。この三つの観点について、判断の基準とすることなどは、『あゆみ』の別紙として『子供たちのがんばり具合の見方』を配付いたしますのでそちらをご覧くださいと存じます。なお、『あゆみ』作成のソフトウェアも刷新されました。設定の変更がうまくできないところがあり、一部、文字が小さく見にくいところもあろうかと思いますが、ご容赦願います。

(文責：校長 廣瀬)